

2023年1月30日

2022年度 聖路加国際大学大学院看護学研究科

課題研究

血液腫瘍患者のアドバンスケアプランニングの実施について
看護師が認識する障壁因子・促進因子
—固形腫瘍患者のアドバンスケアプランニングとの比較—

Barriers and Facilitators Recognized by Nurses
in Implementing Advance Care Planning
for Patients with Hematological Malignancies
as Compared with Patients with Solid Tumors

21MN039

山口歩

要旨

【目的】

血液腫瘍患者のケアに携わる看護師と固形腫瘍患者のケアに携わる看護師の ACP の認知、実施状況、実施内容、話し合いの内容、ACP の実施について看護師が認識する障壁・促進因子を明らかにすること、また、がん種による相違の有無を検討し、血液腫瘍患者の ACP の実施に特有な看護師が認識する障壁・促進因子を明らかにすることを目的とした。

【方法】

全国のがん診療連携拠点病院と地域がん診療病院において、血液腫瘍または固形腫瘍患者のケアに携わる看護師を対象に、web を用いた無記名自己記入式質問紙調査を実施し、ACP の認知、実施状況、実施内容、話し合い内容、ACP の実施における障壁・促進因子について回答を得た。記述統計量を算出し、それぞれの項目の関連について χ^2 検定、残差分析をおこなった。血液腫瘍群と固形腫瘍群の比較には t 検定、 χ^2 検定を用いた。

【結果】

回収率は 33.6% (1119 名)、有効回答率は 99.8% (1117 名)、血液腫瘍群は 536 名 (48.0%)、固形腫瘍群は 581 名 (52.0%) であった。対象者の平均年齢は 36.5 歳、平均経験年数は 13.9 年、ACP の教育・研修参加の経験は 61.3% があった。51.8% が ACP を「よく知っている」と回答した。ACP が「行われている」と回答したのは 57.6%、「行われていない」は 39.4% であった。ACP の「話し合いの実施」「話し合い内容の記録」「話し合い内容の共有」は約 7 割が実施していたが、「話し合い内容の定期的な見直し」は 30.3% と低かった。「本人の気がりや意向」「病状や予後についての患者の理解」「患者の価値観や目標」「医療や療養に関する患者の意向や好み」は約 7~8 割が話し合っている一方、「代理意思決定者」は 46.5% と低かった。ACP の実施における障壁因子は「時間的制約」「定期的な見直しを行う仕組みの不足」「ACP を行うタイミングがわからない」の順にスコアが高く、促進因子は「看護師も ACP の話し合いを行うべきであると思う」「ACP により患者・家族にメリットがあると思う」「話し合い内容の記録場所がある」がスコアの上位を占めていた。血液腫瘍群と固形腫瘍群の比較では、ACP の認知・実施状況・実施内容・話し合い内容に有意な差はなかった。血液腫瘍群のほうが固形腫瘍群よりも有意に平均値が高かった障壁因子は「医師が積極的治療の中止や、終末期の話し合いを避けている」($p=.028$)、促進因子は「ACP に関する話し合いを行う必要性をあなた自身が認識している」($p=.029$)、「ACP に関する話し合いを行う必要性をあなた以外の看護師が認識していると思う」($p=.018$)、「ACP に関する話し合いをどのように行うべきかを知っている」($p=.008$) であった。

【結論】

がん患者の ACP の課題として、定期的な見直しを行う仕組み作り、代理意思決定者を決めるための話し合いの実施が示唆された。血液腫瘍と固形腫瘍における ACP の実施状況の差はなかった。看護師が ACP の必要性を認識し、話し合い方法を知っていることが、血液腫瘍患者の ACP 促進の手がかりであることが示唆された。